

平成28年度行政評価シート【個表】

平成 28 年 6 月 27 日

評価対象事業		評価者	発達支援室長		田中 香織
こども-30 あおぞら園管理運営事業		■ 自治事務	主管課	発達支援室	
		□ 法定受託事務	関連課	こどもみらい課・保育課・こども相談課・市民健康課・教育指導課	
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	すべての子育て家庭への支援	

1 事業の目的

対象	発達に特別な支援を必要とする児童
意図	児童発達支援センターにおいて、日常生活における基本動作の指導、独立自活に必要な知識技能の付与又は集団生活への適応のための訓練を提供するため。
効果	発達に特別な支援を必要とする児童が住みなれた地域社会の中で、普通に暮らしているようにするため、自立に必要な能力の育成を図り、社会への適応性を身につけていくこと。

2 平成27年度に実施した事業の概要

・発達に特別な支援を必要とする児童に対し、保護者と情報交換しながら日々児童指導員、保育士等が集団生活や遊びを通して基本的な生活習慣や社会性の発達を援助した。
・あおぞら園の管理及び通園バスの運行に係る経費を執行した。

3 事業費等基礎データ

人口等のデータ	データ区分	26年度決算	27年度決算	データ区分	28年度当初予算	備考
	人 口	177,464人	177,243人	人 口	176,869人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	80,368世帯	80,676世帯	世 帯 数	80,928世帯	
運営資源状況	事業の対象者数	6,272人	5,680人	事業の対象者数	6,153人	
	決算値(千円)	57,451	49,871	当初予算(千円)	56,899	
	国県支出金			国県支出金	10	
	地方債			地方債		
	その他	57,451	49,871	その他	56,889	
	一般財源	0	0	一般財源	0	
	人員配置数	18.2	17.0	人員配置数	16.0	
	人件費(千円)	135,354	130,338	人件費(千円)	123,040	
事業経費運営	総事業費(千円)	192,805	180,209	総事業費(千円)	179,939	・事業の対象者数 (H27・5,680人、 H26・6,272人、 H25・6,507人、 H24・5,990人、 H23・6,013人)
	市民1人当りの経費(円)	1,086	1,017	市民1人当りの経費(円)	1,017	
	対象者1人当りの経費(円)	30,741	31,727	対象者1人当りの経費(円)	29,244	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○-2. 適正な受益者負担を導入している
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である
	協働実施済	協働実施済の場合のパートナー 鎌倉女子大学

事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他	事業へ統合
予算規模の方向性	☐ A: 予算規模を拡大する ☒ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	事業内容は現状通り及び予算規模は現状維持とするが、市内に複数の民間児童発達支援事業所が設立されている現状をふまえ、鎌倉市における障害児支援の拠点施設として、各民間事業所との連携をより一層図っていくとともに、専門的な立場からの助言や障害児支援に関する情報提供などを積極的に行っていく。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	事業内容は現状通り及び予算規模は現状維持とするが、市内に複数の民間児童発達支援事業所が設立されている現状をふまえ、鎌倉市における障害児支援の拠点施設として、各民間事業所との連携をより一層図っていくとともに、専門的な立場からの助言や障害児支援に関する情報提供などを積極的に行っていく。また、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、市民等との協働による事業の展開を図っていく必要がある。		

平成27年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	児童発達支援センターあおぞら園は、障害児支援の拠点施設として、今後も専門性を高め、民間の児童発達支援事業所との連携や情報共有を図り、市全体としての障害児支援のスキルアップに取り組んでいく。また、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、市民等との協働による実施に向けた検討を行っていく。		
課題解決のために行った平成27年度の取組	児童発達支援センターあおぞら園では、障害児支援の拠点施設として、その専門性を高めるための人材育成、職員研修プログラムに基づいた園内職員研修を継続的に実施してきた。また、民間の児童発達支援事業所との連携や情報共有については、障害者福祉課が所管する「鎌倉市児童通所支援事業所連絡会」等への積極的な参加を通じて連携を図ってきた。市民等との協働事業については、鎌倉女子大学児童学部こども心理学科飯村敦子教授をスーパーバイザーとして、ムーブメントプログラムの療育活動への導入を平成17年度から取り組んでいる。		☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	児童発達支援センターあおぞら園は、障害児支援の拠点施設として、専門性をより一層高めていくとともに、民間の児童発達支援事業所との連携や情報共有の強化を図り、市全体としての障害児支援のスキルアップに今後も継続的に取り組んでいく。また、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、市民等との協働による実施に向けた検討も引き続き行っていく。 保育所等訪問支援事業については、今後利用児童の増加が見込まれる場合、配置職員の増員等の検討が必要となる。 施設管理の側面では、施設建築後38年を経過し、建物全体の老朽化が進んでいる。そのため、利用者の安全が図られるよう公共施設の再編計画の方針を踏まえつつ、修繕計画を策定し、大規模修繕を含む修繕を計画的に実施し、適正な維持管理を進めていく必要がある。		

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	延べ利用件数					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		・開園日数(H28年度(予定)・227日、H27年度・223日、H26年度・230日、H25年度・228日、H24年度・228日、H23年度・223日)
平成23年度より、指標の目標値を「定員(30人)の過去3年間の開園日数(事務事業運営経費の備考欄に記載)に対する出席率に、当該年度の定員(30人)×開園日数を乗じて得た数」としている。	目標値	6,270	6,210	6,153						
	実績値	6,272	5,680							
	達成率	100.0%	91.5%							

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値									
	実績値									
	達成率									

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方									
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

● 事業に関する特記事項

☐ 第3期基本計画前期実施計画重点事業	☐ 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	---